

看護師から要望された臨床検査技師による病棟採血業務への取り組み

◎中河 竜也¹⁾、清水 賢樹¹⁾、森本 真枝¹⁾、南部 重一¹⁾
富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院¹⁾

【はじめに】近年、医師の働き方改革のため、医療関係職種¹⁾の業務範囲を見直し、タスクシフト/シェアが推進されている。しかし、業務の移管先として最も期待される看護師もまた、人手不足が深刻である。これに 대응するため、当院では2022年度より臨床検査技師による病棟採血を開始した。その取り組みについて報告する。

【病棟採血開始までの経緯】医師・看護師及び医療技術者負担軽減を目的とした委員会が発足し、看護部より臨床検査技師による病棟採血業務の参画が要望された。看護師・臨床検査技師による病棟採血ワーキンググループ(WG)を立ち上げ、病棟採血実施に向けた運用方法を検討した。

【対象病棟・対象患者】対象病棟は、地域包括ケア病棟である1病棟6階。対象患者は至急報告が不要であり、薬剤²⁾負荷や採血時刻指定のない患者とした。採血時刻は、病棟業務の妨げにならないことや結果報告を勘案し、午前11時頃とした。

【採血実績】2022年度：平均採血患者約1.9人、平均採血所要時間約17分。2023年度(11月まで)：平均採血患者約

2.4人、平均採血所要時間約21分。

【問題点・効果要望】これまで発生した問題点として、採血対象患者の採血漏れ事例、検査技師の針刺し事故事例、検査技師による患者取違い事例が発生した。原因究明並びに再発防止策を立案し対応した。効果要望については、“看護師による早朝採血件数が減少し、負担軽減につながっている。他病棟への拡大して欲しい”、“採血量不足や溶血などに伴う再採血を行って欲しい”などの意見が出された。

【考察・まとめ】WGや当該病棟看護師と病棟採血に関する打合せを行い業務開始した。開始後も病棟看護師とコミュニケーションをとり、問題点を解消しながら現在に至っている。病棟採血業務は看護師の負担軽減だけでなく、検査項目の特性がわかる検査技師が行うことで、その専門性が発揮できるものである。当院では他病棟への採血業務拡大や再採血業務等の要望はあるものの、人的負担が大きいため、現在は要望には応えられていない。今後も要望に応えられるよう取り組みを継続していく予定である。
連絡先：0766-21-3930（臨床検査部 内線3406）